

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／八幡 ゆかり

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

目標: 特別支援教育の実践課題の解決に向けて、教員としての使命感や専門性が身につく授業を行う。
計画

1. 学部学生には、特別支援教育を取り巻く現状について実践例を紹介したり、保護者に特別ゲストに来てもらうなどすることで、教員としての使命感を培い、望ましい教師像を具体化できるようにする。
2. 大学院生には、特別支援教育の実践課題と理論とを関連づけた講義により、専門性の向上を図り、実践力を身につけるようにする。
3. 学部並びに大学院ともに、主体的に授業に参加できるよう、ディスカッションや発表の場を設ける。
4. 学部並びに大学院ともに、自己評価や他者評価を適切に行えるようにするために、ワークシート等を活用する。

2. 点検・評価

目標: 特別支援教育の実践課題の解決に向けて、教員としての使命感や専門性が身につく授業を行う。

1. 学部の授業で教師としての使命感をもてるように、特別支援教育の理念や実践例を取り上げた。学部1年の授業では特別ゲストとして保護者に来てもらい、学生の望ましい教師像を深めることができた。
2. 大学院生には、高度な専門性を身につけることができるよう、筆者の論文を紹介したり、特別支援教育の実践課題を演習課題に取り上げて受講者同士で話し合わせた。
3. 学部や大学院の授業において授業に主体的に参加できるように発表の場を設けたり、自己評価や他者評価ができるようにワークシート等を活用した。
4. 学部生ならびに大学院生の授業を行うにあたり、彼らの理解度をワークシートや授業の様子から把握し、適宜、復習の時間を設けたり、再度、課題を出すなどして、授業内容の理解と深化に努めた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

目標: 学生が主体的に授業に参加したり、学生生活を円滑に送れるよう、指導助言を適宜行う。

計画

1. 学生が主体的に授業に参加できるよう、グループによる話し合いの場を設定する。その際、学生の授業理解度を確認したり、補足説明を行い授業内容が身につくように配慮する。
2. 修士論文の作成にあたり、特に現職教員が自身の実践課題解決につなげることができるように指導助言を行う。
3. 学部2年の担任や卒業論文や修士論文の指導教員として、学生の生活上の悩み等に適切なアドバイスができるよう、対面指導やメール相談に応じる。

2. 点検・評価

目標:学生が主体的に授業に参加したり, 学生生活を円滑に送れるよう, 指導助言を適宜行う。

計画

1. 学部生や長期履修学生が主体的に授業に参加できるように話し合いの場を設定した。事前に話し合いの内容を把握しておき, 発表後に補足したり, 次の週はワークシート記載内容から, 前時の補足説明を行い, ワークシートにまとめさせた後に, 本時の学習に入る, といった手順で実施した。また, 授業開始前に本時の学習目的や内容を板書しておき, 受講生間の話し合いやワークシートにまとめる時間を確保した。
2. 修士論文の作成にあたり, 現職教員には所属校の課題と関連したテーマについて助言し, 論理的思考力を高めるように努めた。また, ストレート学生には個々の実態に応じたスモールステップ方式の指導を心がけた。
3. 学部2年の担任として, 合宿研修やキャリアノートをとおして教員として必要な心構えや知識などについて具体的な助言指導を行った。また, 卒業論文や修士論文の指導教員として食事会などを開き, 生活上の悩みなどについてアドバイスを行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

目標:特別支援教育の実践研究を進める。

計画

1. 平成22年度に実施した地域特別支援連携協議会のアンケートをまとめて学会発表を行う。
2. 自立活動に関する研究を本学の研究紀要に投稿する。
3. 県教育委員会との連携共同研究により, 市町村にアンケート調査を行う。

2. 点検・評価

目標:特別支援教育の実践研究を進める。

1. 日本特殊教育学会(9月)で, 井上准教授と連名で, 「地域特別支援連携協議会の現状と課題」についてアンケート調査などの結果を報告した。
2. SNE ジャーナル(連合A論文)に, 「自閉症に対応した個別の指導計画の作成と実践に関する研究」を投稿して採択された。
3. 本学の研究紀要に, 昨年度の継続研究として井上准教授と連名で「地域連携特別支援連携協議会の現状と課題(2)」を報告した。
4. 本学の研究紀要に, 歴史研究として「わが国におけるインクルーシブ教育のあり方」を報告した。
5. 「誠信 心理学辞典」の障害者福祉関連の10項目(自立支援給付, 地域生活支援事業, 居宅介護, 障害者手帳, 障害者自立支援法など)を担当執筆した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

目標:大学の一員として, 運営に積極的に携わる。

計画

1. 大学の教育・研究に関して教育研究評議会の一員として積極的に携わる。
2. 基礎・臨床系の副部長として, 部の運営を円滑に行うために部長の補佐役を担う。
3. 特別支援教育専攻の一員として, 専攻の運営に積極的に関わる。
4. 連合大学院学校教育臨床講座の代表者として, 講座の運営に積極的に携わる。

2. 点検・評価

目標:大学の一員として, 運営に積極的に携わる。

1. 大学の教育・研究に関して教育研究評議会の一員として積極的に携わった。
2. 基礎・臨床系の副部長として, 部の運営を円滑に行うために部長の補佐役を担った。
3. 特別支援教育専攻の一員として, 専攻の運営に積極的に関わった。
4. 連合大学院学校教育臨床講座の代表者として, 教員資格審査など講座の運営に積極的に携わった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

目標: 附属学校の研究推進や特別支援教育の課題解決に向けて県教育委員会や県立特別支援学校等と共に, 実践課題に取り組む。

計画

1. 附属特別支援学校の研究テーマや研究方針と内容に関して研究主任などと一緒に取り組む。
2. 県教育委員会特別支援教育課との共同研究を行い, 県下の実践課題について取り組む。
3. 県教育委員会の依頼を受けて各種委員会委員に専門家として参加する。
4. 県立特別支援学校の学校評議員として学校運営について専門家として助言を行う。
5. 教育支援講師・アドバイザー講師として県下の学校に出向く。

2. 点検・評価

目標: 附属学校の研究推進や特別支援教育の課題解決に向けて県教育委員会や県立特別支援学校等と共に, 実践課題に取り組む。

1. 附属特別支援学校の研究テーマ「わくわくする授業研究」の全体の研究計画について研究主任に助言を行ったり, 中学部の研究授業会に出席して講評と助言を行った。また, 2月の研究大会の中学部助言者になった。
2. 中国四国地区知的障害特別支援学校校長会の講演(4月)や全国知的障害特別支援学校教頭大会の助言(7月), 徳島県特別支援教育研究会(8月)で特別支援学級の自立活動の実践報告の助言を行った。
3. 県教育委員会の依頼により, 教科書審議委員として特別支援教育の専門家として意見を述べた(5月, 6月)。
4. 県立総合教育センターの依頼で, 県下特別支援学級担当者に自立活動について講演を行った(9月)。
5. 盲学校の学校評議員として学校運営について専門家として助言を行った(7月, 1月)。
6. 徳島県教育会の委員として, 投稿論文の審査を行い, 表彰式に臨んだり, 審議事項について検討した(5月, 6月, 12月)。
7. アドバイザー講師として小学校の総合的な学習の時間の助言や洲本氏教育委員会の依頼で特別支援教育コーディネーター(幼・小・中学校)を対象にした研修を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1. 学長が定める重点目標に掲げている「教育大学教員としての授業実践」については, 5年間, 学部ならびに大学院の学生による授業評価は4.7~4.9(5段階評価)を維持している。学部学生からは, 授業評価だけでなく, 教員採用試験に役立ったとか, 現職教員からは, 教育実践力や専門性の向上に役立ったとの感想を得ている。